

# 水道創設 特集

## くらしと健康を支えて いま 水道は 80 年

### 水道のなかつたころ

新潟は、古くから八千川、水も飲用に適さなくなってきたため、信濃川中流のきれいな水をくんで飲料水として使われてきた。しかし、この飲料水となる過船が登場し、ここを過ぎた水を取水船にくみ取りで販売したといわれていま

り、川船が行き来するなど、に恵まれた街でした。新潟は、古くから八千川、水も飲用に適さなくなってきたため、信濃川中流のきれいな水をくんで飲料水として使われてきた。しかし、この飲料水となる過船が登場し、ここを過ぎた水を取水船にくみ取りで販売したといわれていま

さらに、新潟に市制が施行された明治二十二年（一八九九）には吉川武成、大塚良城の両氏によって、私営の水道が敷設されました。この水道は関屋砂丘地の地下水を木製

のほりました。その後、市勢の発展に伴い水道施設も数々にわたる拡張事業を行い、現在では普及率はほぼ百分、給水能力は創設時の五十二倍の三十三万九千

日にも達しました。市民一人ひとりが一日に使用する水の量は増加をたどり、平成元年度では一人一日あたり四百五十一リットルの水を使用しました。

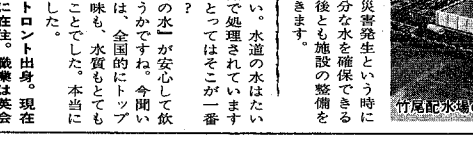
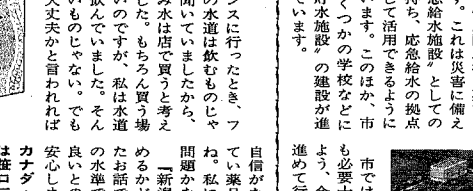
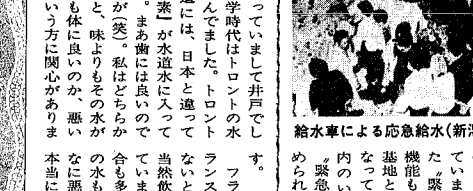
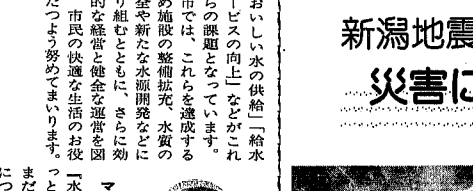
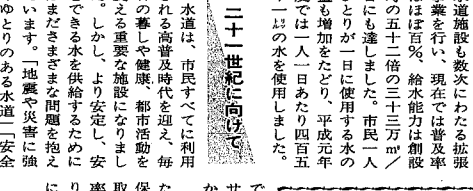
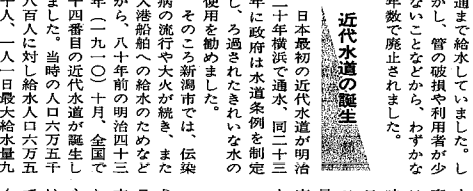
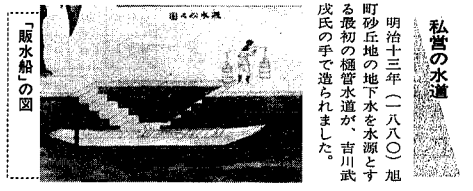
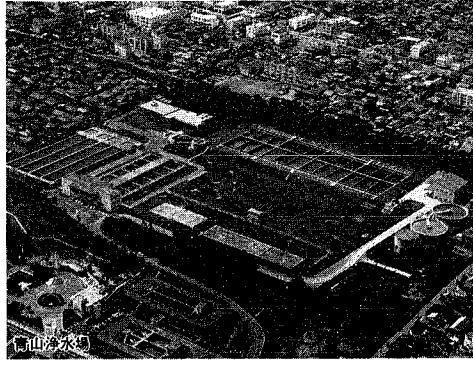
十七日という計画で建設されたが、実際に給水したのは、一万四千七十七人でした。当時の市庫出予算額の九倍にものぼりました。

その後、市勢の発展に伴い水道施設も数々にわたる拡張事業を行い、現在では普及率はほぼ百分、給水能力は創設時の五十二倍の三十三万九千日にも達しました。市民一人ひとりが一日に使用する水の量は増加をたどり、平成元年度では一人一日あたり四百五十一リットルの水を使用しました。

市では災害発生という時に必要十分な水を確保できるよう、今後とも施設の整備を進めていきます。

市では災害発生という時に必要十分な水を確保できるよう、今後とも施設の整備を進めていきます。

市では災害発生という時に必要十分な水を確保できるよう、今後とも施設の整備を進めていきます。



### 水道創設80周年記念 もんと遊ぼう ウォーターセッション'90

水道局では、水道創設80周年記念イベントとして、司会にタレント「みのもんた」さんを迎え「ウォーターセッション'90」を開催します。ご来場をお待ちしています。

日時 10月7日(日)12:00~14:30  
会場 プラザカ1キリシヤ広場  
バンド演奏 ロスデルセキヤ、ほか  
はしごのり、木やり 一番会  
おもしろクイズセミナー 水に関するクイズを出題。正解者にはミスにいがたから賞品をプレゼント

トークショー みのもんたさんの水道に関するユーモアトークショー  
\*10月5日~7日プラザカ1遊とびあホールで、水道関連の展示会も開催します。  
※来場者にはプレゼントをさしあげます。

内容

### 水の番人 「ヒメダカ」

水道の一番水を真の先に飲んでいるのは、僕たち「ヒメダカ」ということを存じているのは、人間より数倍も敏感な体を持つ僕たちは、水道水の中で生活して、異常がない

### 水道くほく話

かどくかを監視しています。それが仲間「ヒナ」は、水道の原となる河川の水質を監視しているんですよ。

### 何だこれは？ 「おしんカブ」

昭和五十八年ころ、毎日八時十五分なると配水車が極端に減少し、八時過ぎに回復するとう、これまで経験したことのない奇妙な現象がグラフに現れました。

### 原因は？どうして？

職員が調査した結果は、何とテレビ番組「おしん」によもとの判明したのです。多くの主婦が朝の仕事を休む、一斉にテレビにくぎづけになっていたのです。水道局ではこの現象を「おしんカブ」と命名しました。

### 堀内真理子さん

私の生れたのは県東八代という町で、焼酎と水のおもいころ、近くを流れる球磨川が洪水を起すたびに、井戸の水が濁り「飲んじやだめよ」

### マーク・ロヴエルさん

「水についてですか？ちょっと触れないかな。日本に来てまだ日が浅いから、今まではついて意識したことはありませんね。カナダの家では農

### 新潟の水を語る

と聞かれたのを覚えていました。最も豊富で給水制限の経験もないし、料金だけが他の公共料金に比べて随分安いせんね。でも学生のころ東京に住んでいたんです。高にかおもしろいかな。たいてい近人の子の朝シャンが飛して朝風呂になっちゃって、ちゅっ！と思ふこともありました。この夏「バックリの水」が売れたとニュースが報じて

「販水船」の図

近代水道の誕生

二十世紀に向けて

おいしい水の供給「給水サービスの向上」などがこれからの課題となっています。

給水車による応急給水(新潟地震)

竹尾配水場の完成予想図

## 新潟地震を乗り越えて 災害に備えた施設の整備



新潟国体が終わった五日目の昭和三十九年六月十六日午後二時二分、突如として地面は層増加させました。しかし、大波のように揺れ動き、ビルは傾き、黒煙が天を覆った。島原野の各浄水場の被害は比喩的軽く、応急給水を行うことができませんでした。施設の復旧にあたっては、

これまでも同じ原形復旧ではなく、地震など災害に強く、将来の水需要も見越した施設として造り直すため、国庫補助以外にも市独自で多額の資金を投入した「改復旧」という、当時としては画期的な方針で行われました。こうした老朽管は入れ替わり、配水管網が強化され、漏水の減少など新潟市の水道は全国に誇れる施設となりました。この経緯は今日に引き継がれ、各方面で生かされています。現在、平成七年までの水需要に対応する第五回拡張事業の中で、竹尾配水場を建設しています。これは災害に備えた、緊急給水施設としての機能も持ち、応急給水の拠点基地として活用できるようにしています。このほか、市内のいくつかの学校などに緊急貯水施設の建設が進められています。

竹尾配水場の完成予想図